

Reference No.1

Utility Model

Public Laid-open Disclosure No.: 2-97253

Public Laid-open Disclosure Date: August 2, 1990

Title of Invention: Cap

Applicant: Yoshino Kogyo

Abstract:

The present invention relates to a cap with an outlet which enables to dispense the liquid within a receptacle without detaching the cap from the spout of the receptacle.

Explanation of Reference Numerals

- 1 cap body
- 2 cap
- 5,11 peripheral wall for engagement
- 6, 12 inclined communication cylinder
- 9 outlet

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平2-97253

⑬ Int. Cl.⁹

B 65 D 47/26

識別記号

F

庁内整理番号

8208-3E

⑭ 公開 平成2年(1990)8月2日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮ 考案の名称 キャップ

⑯ 実 願 平1-3713

⑰ 出 願 平1(1989)1月17日

⑱ 考 案 者 阿 部 孝 之 東京都江東区大島3-2-6 株式会社吉野工業所内

⑲ 考 案 者 篠 崎 夏 夫 東京都江東区大島3-2-6 株式会社吉野工業所内

⑳ 出 願 人 株式会社吉野工業所 東京都江東区大島3丁目2番6号

㉑ 代 理 人 弁理士 今岡 良夫

⑳ 実用新案登録請求の範囲

頂壁3周縁から取付け用周壁4を垂設すると共に、前部側が低位となるよう上端面を斜面とした係合用周壁5を立設し、かつ頂壁3中央部から前部側に傾斜する傾斜連通筒6を立設し、この傾斜連通筒6の後部側筒壁に窓7を開通し、さらに頂壁3の傾斜連通筒6前面側に透孔8を開孔して容器口部に装着されるキャップ本体1と、中央部に注出孔9を開孔した天板10周縁から、下端が前記係合用周壁5と逆の斜面としてこの周壁5に抜け出し不能に嵌合する係合用周壁11を垂設し、かつ天板10裏面の注出孔9まわりから前記傾斜連通筒6に嵌合する傾斜連通筒12を垂設し、こ

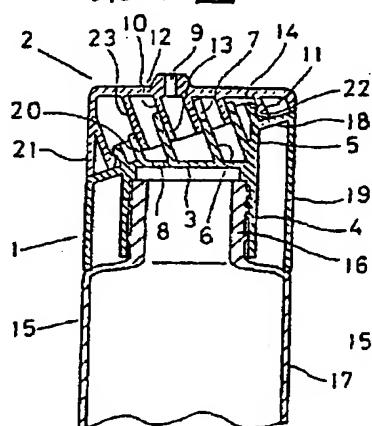
の連通筒12の前部側筒壁に窓13を開通した回動可能な天蓋2とからなり、天蓋2を半周回動するとこの天蓋2、従つて注出孔9が前部側に傾斜し、かつ窓13が窓7に重合連通して注出可能となるキャップ。

図面の簡単な説明

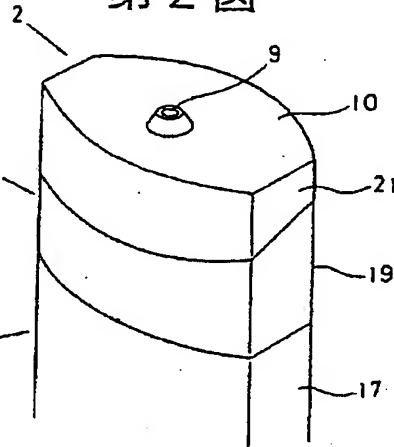
第1図乃至第4図は本考案キャップの一実施例を示し、第1図と第2図は常時閉栓時の縦断面図と外形斜視図、第3図と第4図は注出開栓時の縦断面図と外形斜視図である。

1……キャップ本体、2……蓋、5、11……係合用周壁、6、12……傾斜連通筒、9……注出孔。

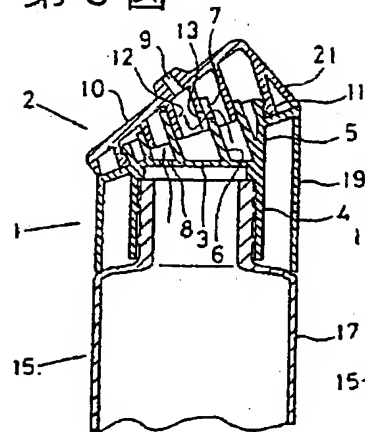
第1図



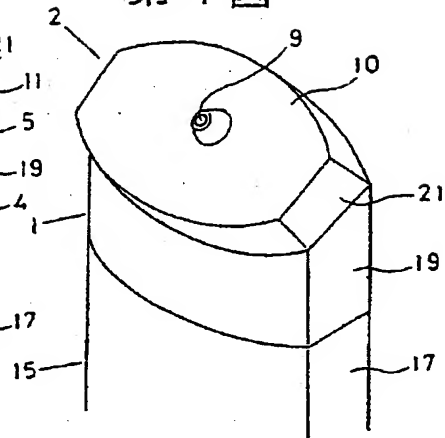
第2図



第 3 図



第 4 図



公開実用平成 2-97253

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-97253

⑬ Int. Cl.³

B 65 D 47/26

識別記号

F

庁内整理番号

8208-3E

⑭ 公開 平成2年(1990)8月2日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 キヤップ

⑯ 実 願 平1-3713

⑰ 出 願 平1(1989)1月17日

⑱ 考 案 者	阿 部 孝 之	東京都江東区大島3-2-6	株式会社吉野工業所内
⑲ 考 案 者	篠 崎 夏 夫	東京都江東区大島3-2-6	株式会社吉野工業所内
㉑ 出 願 人	株式会社吉野工業所	東京都江東区大島3丁目2番6号	
㉒ 代 理 人	弁理士 今岡 良夫		

明 細 書

1. 考案の名称

キャップ

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 頂壁 3 周縁から取付け用周壁 4 を垂設すると共に、前部側が低位となるよう上端面を斜面とした係合用周壁 5 を立設し、かつ頂壁 3 中央部から前部側に傾斜する傾斜連通筒 6 を立設し、この傾斜連通筒 6 の後部側筒壁に窓 7 を開通し、さらに頂壁 3 の傾斜連通筒 6 前面側に透孔 8 を開孔して容器口部に装着されるキャップ本体 1 と、中央部に注出孔 9 を開孔した天板 10 周縁から、下端が前記係合用周壁 5 と逆の斜面としてこの周壁 5 に抜け出し不能に嵌合する係合用周壁 11 を垂設し、かつ天板 10 裏面の注出孔 9 まわりから前記傾斜連通筒 6 に嵌合する傾斜連通筒 12 を垂設し、この連通筒 12 の前部側筒壁に窓 13 を開通した回動可能な天蓋 2 とからなり、天蓋 2 を半周回動するとこの天蓋 2、従って注出孔 9 が前部側に傾斜し、かつ窓 13 が窓 7 に重合連通して注出可能となるキャップ。

3. 考案の詳細な説明

「産業上の利用分野」

本考案は、容器口部から取外することなく容器内液が注出できる注出栓付きのキャップに関する。

「従来技術」

この種キャップの代表的なものとして、洗剤容器に取付けたものがある。即ち、頂壁に透孔を開孔して容器口部に装着したキャップ本体頂部に、頂部に注出孔を開孔した摘みを引出し、押込み可能に取付け、押込んだとき注出孔を閉栓させ、引出したとき注出孔を開栓させてキャップ本体の透孔に連通させ注出可能となるようにしたものである。

「考案が解決しようとする課題」

上記従来のものであれば構造、操作共に簡便な利点があるが、摘みが閉栓中か開栓中か見た目に判然としないのが難点であり、このため開栓状態で放置し、うっかり容器胴部を強く把持して内容液を注出してしまう不都合がある。

本考案は、天蓋の回動操作により注出孔が開、

閉栓でき、さらに開栓、閉栓状態で形状が大きく変化し、従って開、閉栓状態が一目瞭然に判別でき、しかも開栓時には外形が注ぎ出し易い形状となる便利なキャップを得るにある。

「課題を解決するための手段」

本考案のキャップは、頂壁 3 周縁から取付け用周壁 4 を垂設すると共に、前部側が低位となるよう上端面を斜面とした係合用周壁 5 を立設し、かつ頂壁 3 中央部から前部側に傾斜する傾斜連通筒 6 を立設し、この傾斜連通筒 6 の後部側筒壁に窓 7 を開通し、さらに頂壁 3 の傾斜連通筒 6 前面側に透孔 8 を開孔して容器口部に装着されるキャップ本体 1 と、中央部に注出孔 9 を開孔した天板 10 周縁から、下端が前記係合用周壁 5 と逆の斜面としてこの周壁 5 に抜け出し不能に嵌合する係合用周壁 11 を垂設し、かつ天板 10 裏面の注出孔 9 まわりから前記傾斜連通筒 6 に嵌合する傾斜連通筒 12 を垂設し、この連通筒 12 の前部側筒壁に窓 13 を開通した回動可能な天蓋 2 とからなり、天蓋 2 を半周回動するとこの天蓋 2、従って注出孔 9 が前部

側に傾斜し、かつ窓13が窓7に重合連通して注出可能となる構造のものである。

「作用」

上記において、常時は第1図、第2図のように天蓋2は、係合用周壁5に嵌合されている係合用周壁11は逆の斜面状態となるようキャップ本体1に嵌合装着されており、この状態で天蓋2の天板10は水平であり、また窓7と13は共に相手側の傾斜連通筒12,16の筒壁で閉塞され、従って透孔8と注出孔9は不連通、つまり注出孔9は閉栓状態にある。

ここで、注出時には第3図、第4図のように天蓋2を半周回動操作する。すると、これらの図のように係合用周壁11は前部側が低くなるので大きく傾斜し、従って天蓋10、つまり注出孔9も前部側に傾き、そして窓13が窓7に重合連通するので、注出孔9がこれら窓13, 7を通し透孔8に連通する、即ち開栓するので矢示のような経路で注出可能となる。そして注出孔9が斜め前方向に向いているので、注ぎ出し易い。

「実施例」

以下図面を参照して一実施例を説明するに、本考案のキャップは、天蓋 2 をキャップ本体 1 に対し端面が逆の斜面とした互いの係合用周壁 5、11 を介し回動可能に組込み、注出時天蓋 2 を半周回動させて傾斜状態とし、この状態で天蓋 2 の注出孔 9 が開栓されるようにしたことを特徴としている。

キャップ本体 1 は、水平な頂壁 3 周縁から内面にねじ溝を形成した取付け用周壁 4 を垂設すると共に、前部側（図示左側）が低位となるよう上端面を斜面とした係合用周壁 5 を立設し、この周壁 5 の上部側を前部側に傾斜させてこの傾斜部外面に係合突条 14 を突出し、かつ頂壁 3 の中央部から前部側に傾斜する傾斜連通筒 6 を立設し、この連通筒 6 の後部側筒壁上部に切欠き溝状の窓 7 を設け、さらに頂壁 3 の連通筒 6 前面側に透孔 8 を開孔し、取付け用周壁 4 を容器体 15 の口頸部 16 外面に螺合して取付けられている。この容器体 15 の胴部 17 は横断面が楕円に近い形状のものである。

そこでキャップ本体 1 は、取付け用周壁 4 の前部側上部と係合用周壁 5 の後部側上部を結ぶ線から外方に拡がる楕円形の傾斜頂壁 18 を設け、この頂壁 18 周縁から外部周壁 19 を垂設し、容器体胴部 17 に外形を合わせ、また方向性を合致させている。なお、20 は頂壁 3 の周縁部から立設した傾斜支持筒である。

天蓋 2 は、中央部に注出孔 9 をノズル状に開孔した楕円形の水平な天板 10 周縁から、前記傾斜頂壁 18 周縁に乗る下端面がこの頂壁 18 と逆の斜面とした前記外部周壁 19 に対応した外部周壁 21 を垂設し、またこの外部周壁 21 の内側に、下端面を同じく逆の斜面として前記係合用周壁 5 に外嵌する係合用周壁 11 を後部側に傾斜させて垂設し、この係合用周壁 11 下部内面に前記係合突条 14 に係合する係合突条 22 を設けて抜け出し不能とし、また注出孔 9 まわりの天板 10 裏面から前記傾斜連通筒 6 に内嵌する傾斜連通筒 12 を垂設し、この連通筒 12 の前部側筒壁下部に切欠き溝状の窓 13 を設け、回動可能に前記キャップ本体 1 上面部に装着している。

23は前記傾斜支持筒20に内嵌する傾斜支持筒である。

従って、この実施例によれば、常時は第1図、第2図のように天蓋2の天板10は水平状態にあり、また窓7と13は互いに相手の傾斜連通筒12、6の筒壁で閉塞され、従って注出孔9は閉栓状態にあり、注出に際し天蓋2を第3図、第4図のように半周回動させるとこの天蓋2、従って注出孔9は前部側に傾き、また窓7と13は重合して連通し、従って注出孔9がこれら窓7、13を介し透孔8に連通する、即ち開栓するので容器体15内の液が矢示の経路で注出可能となる。

上記各部は合成樹脂材で成形製作する。

「考案の効果」

上記したように本考案のキャップは、注出孔9を開孔した天蓋2をキャップ本体1に対し端面を逆の斜面とした互いの係合用周壁5、11を介して回動可能に組込み、天蓋2を半周回転すると天板10が水平状態から傾斜状態に形状が変化するようにし、水平状態を常時として注出孔9が閉栓され、

傾斜状態を注出時として注出孔 9 が開栓されるようにしたので、開栓、閉栓状態が一目瞭然に判別できて、便利であり、しかも注出時には注出孔 9 が前面に傾くので注ぎ出し易く、さらに開、閉栓は天蓋 2 を半周回動させるのみなので操作は極く簡便である。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図乃至第 4 図は本考案キャップの一実施例を示し、第 1 図と第 2 図は常時閉栓時の縦断面図と外形斜視図、第 3 図と第 4 図は注出開栓時の縦断面図と外形斜視図である。

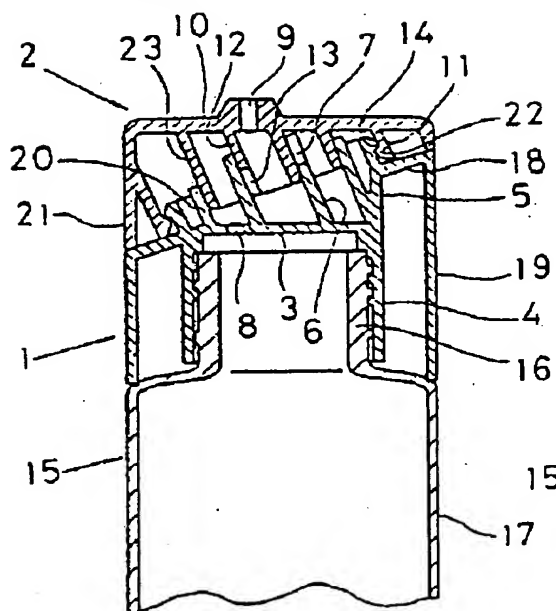
- 1 … キャップ本体 2 … … 蓋
5, 11 … 係合用周壁 6, 12 … 傾斜連通筒
9 … 注出孔

出願人 株式会社 吉 野 工 業 所

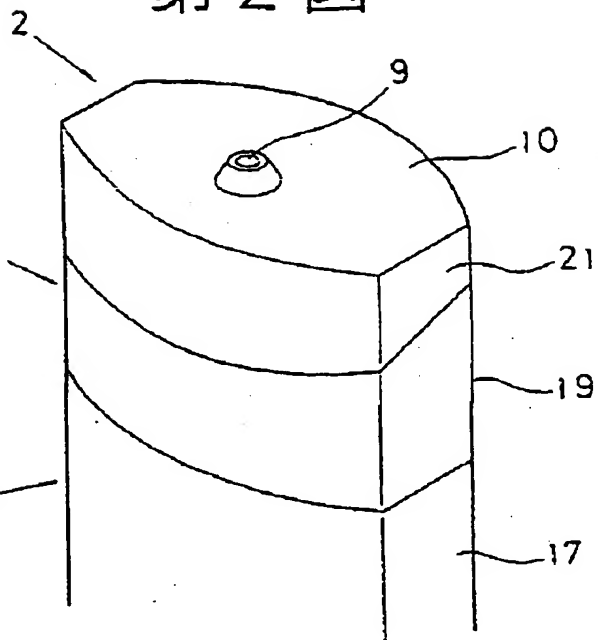
代理人 弁理士 今 岡 良



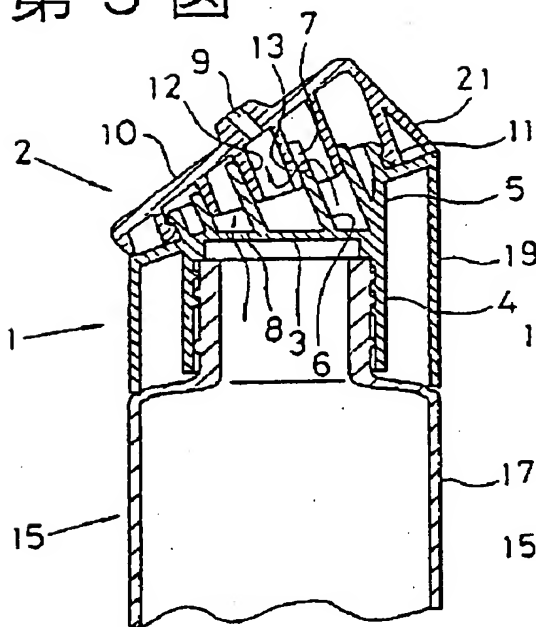
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

